

1 これまでに取り組んだこと

項目	内容
事業所の体制・備え	事業所に残っていた食材でお弁当を作り、販売した（60個） B型、移行、自立、3つの事業所全て同じフロア（2F）になるように引っ越しをした（階段で降りられるよう） 建物・設備の点検 備品を増やした（量・品数） 担当者を明確にした 棚から品物が崩れないようにした 移転した（緊急時、動きづらかったため） 身近なもので防災グッズ 充電機（大きな）を2つ購入。ストーブ（電池）を2台購入 防災グッズの見直し 公用車のガソリン確認 蓄電池の購入 非常食（米・缶詰）と水（2ℓ×30本）、ヘッドライト 利用者の服薬一覧、病状や情報収集→リュックに入れた 手袋、カイロ、エマージェンシーシート → 先月に整えた 準備段階、これから。テナントビル3F→フロア 避難場所の確認 無印の3日間生きのびよう（チラシ）。ネットでダウンロードできる 昼夜 水と食料は用意しよう。しばらくは浴槽に水を張っていた。帰宅できるようにタクシー代を用意
訓練・計画作成等	毎月避難訓練（抜き打ちもあり）避難経路も確認 災害時の対応についてのビデオを見た 利用者にアンケート実施→結果をマニュアルに活かして更新 避難時の行動計画。防災マニュアル見直し 避難訓練。避難経路の話し合い プログラムで防災訓練 避難訓練→階段室が一番安全（7Fにあるため）。ビル自体のものには積極的に参加。消防署がきたり。非常時はかついたり、投げ捨てることもあるよと本人たちに周知。職員でかつぐ練習したり←訓練の一環 毎月、市の防災センターに行っている
情報・連絡体制	個人の携帯に職員や利用者さんの連絡先を入れた データ（利用者さんの）を紙でおこし、ファイリングした 利用者さんの連絡先の再確認 利用者さんの自宅へ訪問 固定電話から携帯電話に変更 マニュアル作成（連絡方法、各種災害に備え）－ 利用者用も整備 連絡網の整備（職員も利用者も）→LINEの活用 単身（相談室しかつながっていない方）のリストを紙で用意 LINEワークス導入 緊急連絡網あったが使おうと思ったら、つながらなかったり、番号が変わっていた。→個別計画の振り返りのタイミングで再確認 連絡網を1人しか持っていなかった→職員で数名に分けて本人、家族分を持ち歩くように分担（更新は1、2ヶ月毎にモニタリング）
社会資源	避難先まで見に行った
その他	ショイン 視聴覚センター →混乱を避けるために閉められていた。避難訓練していなかった。 担当あったが連絡先は把握できておらず→地震後1W以内に安否確認した

2 未実施な取り組み（とその理由）・今後取り組みそうなこと

項目	未実施な取り組み	その理由	今後、取り組みそうなこと
事業所の体制・備え	停電、水害に対するの対応（蓄電池など）電気があれば違った	使う方、使う時がなかった	ガソリンの確認。出前講座
	日中に災害が起きて、利用者さんが自宅に帰れず事業所にとどまるとき		
	避難、防災の担当者がいない（定例会があるから考えた）		避難、防災の担当者を決める
	冬に対応できていない		雪害についても考える。オールシーズン使えるように防災グッズを揃える
	水はどれくらい必要か		
	利用者さんが移動しているとき（職員と離れているとき）		
	利用者さん自身に用意してもらうものの確認	言っただけで終わっている	確認や声掛け
	職員間の会議（定例会があるから考えた）		
			PCの電源
			アクアクララ、災害用の自販機
			公用車にも防災グッズを置く
			災害のことを考えるだけのチーム（あむ）→自分の家族、自分を大切に。管理者、サブチーフ→安全が確保できたら出勤。まずは自助。
			品物だけではなく、情報も（フェイスシート）
			職員の体制、情報の収集
			職場内での指示系統→自分で動きを決めておく。
	訓練・計画作成等	避難訓練ができていない	例）資生館小が避難場所。理由：やろうという人がいなかった。※その時は外国人が多かった（すすきのが近い）他中島中。何か手伝うことありますか
風化させないようにするには？			定期的に確認（情報を含めて）。月1回メールの発信（まずは伝えること）。朝礼も活用 緊急対応のビデオを見る（ネット）
			訓練（様々なシチュエーションのシミュレーション）
			災害時や緊急時と同様のことを体験してもらおう（その時どうするか）

項目	未実施な取り組み	その理由	今後、取り組みそうなこと
情報・連絡体制	LINEワークスの実用化（試し中）		今後も継続して検討
	安否確認	どこまでやるのか、見に行くのか	早い対応（声かけ等）
	緊急時の優先順位が決められていない（もしかしたら、他の機関とつながっていない人もいるかもしれない。逆に機関がありすぎて、全部が安否を確認してしまうムダ）	情報が不十分。どこまで関わらなければならぬか	緊急連絡先を1か所→2か所。関係機関との情報共有。イベントを通してのつながり強化
	持ち出し用の情報がなかった（定例会があるから考えた）		緊急時見られるようなものを準備
			ラインワークス：通常の仕事に使うライン。招待者が既読を確認できる。
社会資源	災害時対応できる病院を知らない	具体的な想定をして対策を考えられない	
	周辺情報の把握（道路状況）	それぞれの事業所で行っているが、各事業所の協力ができていなかった	
	避難場所を確認しに行く		
	福祉避難所って？		
			ガソリンスタンドの確認
			現地での状況確認（行かなきゃわからない）
			地域の資源マップ（地区単位であればなお良し）
		【あったらいいな】自動販売機の飲み物どうにかならないか	
		【あったらいいな】近くの社会資源のマップ	
地域との関わり	地域との協力体制	日頃関わりがない	声掛け（頭に思い浮かぶ関係）になる
	地域との取り組み	町内会との関係がきちんと築けていない	地域の防災訓練にまず参加してみたい。地域にも関心を持ってもらえるよう働きかける
	周りから孤立しているような人にどう関わるか（独居を含む）	情報がきちんと伝わるにはどうしたらよいか。インターネットを見ない人もいる（高齢の方など）	
勉強会等			DIG、HUG、勉強会→エリアの近い事業所でグループを作り案を出したい事を考えるとDIGの方が有効
			DIGとHUGをしてみる（してもらっただけでなく、する意識も教育）
連携	いざというときの人間関係づくり		
	支援者同士のネットワーク作り		
			スタッフ間の情報共有→〇〇事業所は水の保管がある、△△事業所はPCがたくさんあるため充電ができるかも等の情報共有→多事業所スタッフとの連絡体制の在り方を検討したい
			生活介護のネットワーク→場のシェア
意識改革	危機意識をもつ	声をあげる人が少ない。危機意識の低さ。	
			危機感を持ちたい→事業所の長に危機感がないため現場での取り組みが進まない
			利用者への意識付け